

2023年2月26日 午前礼拝  
「天の御国の生き方④」 義に飢え渴く者 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:6

6.義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

【説教要約】

山上の説教も4回目になりました。

山上の説教を一言でまとめるならば、「天の御国の生き方」になると思います。  
これはすべての人にイエス様が語られた説教ではなくて、イエス様に会い、心に光を受けた人々つまりクリスチャンに向かって語られているからです。

マタイ 4:16, 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」

マタイ 4:17, この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

キリスト教は、人間の努力の宗教ではないのです。  
いつも、「イエス様が私に光を下さった」ことから始まるのです。

今まで見てきたように、このクリスチャンに語られた山上の説教は、「幸いな人」という格言で始まっています。  
誰から見ても幸いなのかと言いますと、神様から見ても幸いな人、すなわち「幸せ者」だということなのです。

マタイ 5:3, 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイ 5:4, 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

この「幸いな人」の特徴の一つは、自分の努力でそうなったのではないということです。  
いつも神様が心の貧しさを教え、神様の悲しみを教え、柔和=謙遜な思いを与えてくださるのです。

「神様が、心の必要も生活の必要も与えてくださる」ことがクリスチャン生活の特別なところなのです。

①

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

今日はその続きになります。「義に飢え渴く者」についてです。そのような人は、神様から見て「幸せ者」なのです。

「義」というと、正義とか義務とかの「まっすぐな正しい行い」を思い浮かべます。しかし、「義に飢え渴く」は「正義に燃える」とは少し違います。この「義」も、他の「幸いな人」と同じく、自分で得るものではなく神様から与えられるものだからです。

しかも「義に飢え渴く」と言われています。飢え渴くは文字通り、何日も飲み食いしなかつたために死にそうな苦しみを味わっている様子です。

「今すぐ義をもらえなければ、死んでしまう」という状態だと言うことです。

では、この箇所で行われている義とは何なのかと言いますと、「神様との正しい関係」ということが出来ます。

聖書でかなり有名な人物に「ダビデ」がいます。彼の信仰は神様に大きく評価されています。イエス様について、「ダビデのような王がいつか来る」と旧約聖書で預言される程に、ダビデの信仰はイエス様に似ていたのです。

神様はイスラエルの国を建てる王様としてダビデを選びました。イスラエルが一つの国としてまとまるには時間がかかりました。それまでダビデは多くの敵国からの攻撃から国を守り戦い抜きました。それはダビデがいつも「神様が必ず助けてくださる」と信頼していたからでした。

しかし、今日見ていきたいのは、彼が大きく残酷な罪を犯したときの話です。国が強くなり、ダビデの心は神様に頼ることをやめていました。

②罪の深刻さ

Ⅱサムエル 11:2, ある夕暮れ時、ダビデは床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、ひとりの女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。

Ⅱサムエル 11:3, ダビデは人をやって、その女について調べたところ、「あれはヘテ人ウリヤの妻で、エリアムの娘バテ・シェバではありませんか」との報告を受けた。

Ⅱサムエル 11:4, ダビデは使いの者をやって、その女を召し入れた。女が彼のところに来たので、彼はその女と寝た。——その女は月のものの汚れをきよめていた——それから女は自分の家へ帰った。

Ⅱサムエル 11:5, 女はみごもったので、ダビデに人をやって、告げて言った。「私はみごもりました。」

ウリヤという人の妻で「バテ・シェバ」という人が水浴びをしていました。ダビデはそれを見て、バテ・シェバが欲しくなり王の権威を使ってバテ・シェバと関係を持ちます。

当然、これは十戒にも書かれている姦淫の罪です。判明したら問答無用で死刑です。しかも神様が下さった王の立場を利用して、姦淫を犯したのです。

すると、バテ・シェバが妊娠してしまったことが分かります。

Ⅱサムエル 11:6, ダビデはヨアブのところに人をやって、「ヘテ人ウリヤを私のところに送れ」と言わせた。それでヨアブはウリヤをダビデのところに送った。

妊娠したと分かり、ダビデはどうしたかという、戦場にいる夫のウリヤを呼び戻します。

それは、ウリヤをバテ・シェバに会わせ、夫婦の営みをさせ、今回の妊娠を誤魔化すためでした。

ダビデは二度、ウリヤに家に帰って妻と過ごすように、と言います。しかしウリヤは、「他の者が神のために戦っているのに、自分だけ今家に帰ることはできません」とそれを拒みます。

何とか誤魔化そうとしたダビデでしたが、うまくいかないで追い詰められます。

Ⅱサムエル 11:14, 朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、ウリヤに持たせた。  
Ⅱサムエル 11:15, その手紙にはこう書かれてあった。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が打たれて死ぬようにせよ。」  
Ⅱサムエル 11:16, ヨアブは町を見張っていたので、その町の力ある者たちがいると知っていた場所に、ウリヤを配置した。  
Ⅱサムエル 11:17, その町の者が出て来てヨアブと戦ったとき、民のうちダビデの家来たちが倒れ、ヘテ人ウリヤも戦死した。

追い詰められたダビデは、戦場にいる部下に手紙を書き、「ウリヤが戦死するようにしろ」と言ったのです。

ダビデは、自分の姦淫の罪が明らかになりそうになり追い詰められ、「ウリヤを殺して事実を隠そう」と計画したのです。

計画はうまくいき、ウリヤは戦死し、ダビデの罪は隠されました。

しかし、神様はすべてをご存知だったのです。

ナタンという預言者をダビデのところへ遣わして、ダビデがバテ・シェバとウリヤにしたことを例え話で語られました。

自分がしたようなことを例え話で聞いたダビデはどうしたか。

Ⅱサムエル 12:5, すると、ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「主は生きておられる。そんなことをした男は死刑だ。

Ⅱサムエル 12:6, その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない。」

ダビデは、自分のしたことを例え話で聞いて、なんと他人事のように正義に燃えて怒るのです。

しかし、真実がダビデに突きつけられます。

Ⅱサムエル 12:7, ナタンはダビデに言った。「あなたがその男です。イスラエルの神、主はこう仰せられる。『わたしはあなたに油をそそいで、イスラエルの王とし、サウルの手からあなたを救い出した。

Ⅱサムエル 12:8, さらに、あなたの主人の家を与え、あなたの主人の妻たちをあなたのふところに渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ないというのなら、わたしはあなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。

Ⅱサムエル 12:9, それなのに、どうしてあなたは主のことばをさげすみ、わたしの目の前に悪を行ったのか。あなたはヘテ人ウリヤを剣で打ち、その妻を自分の妻にした。あなたが彼をアモン人の剣で切り殺したのだ。

姦淫とそれを隠すための殺人。ダビデのした罪は衝撃的な罪です。

しかも、はっきりと指摘されるまで、彼は他人事のように正義に燃えることができました。この、どこまでも壊れ矛盾している心こそが罪なのです。

しかし、はっきりと指摘された時、ダビデはこう答えました。

Ⅱサムエル 12:13, ダビデはナタンに言った。「私は主に対して罪を犯した。」ナタンはダビデに言った。「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった。あなたは死なない。

Ⅱサムエル 12:14, しかし、あなたはこのことによって、主の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる子は必ず死ぬ。」

ダビデは、罪をまっすぐ認めました。

すると主も、それを赦してくださったのです。

詩篇 51 篇は、この時にダビデがした祈りです。

詩篇 51:1, 神よ。御恵みによって、私に情けをかけ、あなたの豊かなあわれみによって、私のそむきの罪をぬぐい去ってください。

詩篇 51:2, どうか私の咎を、私から全く洗い去り、私の罪から、私をきよめてください。

詩篇 51:3, まことに、私は自分のそむきの罪を知っています。私の罪は、いつも私の目の前にあります。

詩篇 51:4, 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。

詩篇 51:10, 神よ。私にきよい心を造り、ゆるがない霊を私のうちに新しくしてください。  
詩篇 51:11, 私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください。

ダビデが、自分の行いではなく、壊れた神様との関係に目を留めているのが分かりますか。

詩篇 51:4, 私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく、さばかれるとき、あなたはきよくあられます。

ダビデは姦淫と殺人の罪を犯しました。それは取り返しのつかない行為でした。しかしダビデにとって本当に心傷んだ事実は、自分の心が神様から離れていたという点にありました。

「罪」というものを、特定の悪い行為に限定しがちな私達です。

しかし罪の問題というのは、良い行いをしているか悪い行いをしているかということではないのです。もし行いの問題なら、行いを直せば終わりです。反省で終わりです。それは自分の力で終わることかもしれません。

しかし罪の中心とは、神様との関係が壊れ、神様に信頼しなくなることにあります。ダビデがバテ・シェバのことが欲しくなり、姦淫を隠蔽しようとし、隠せないで殺人をした一方で、彼は他人の罪に対して心から正義に燃えることができました。行いにも意識にも、こんな矛盾があるのが人間なのです。これは人間の努力ではどうしてもない程に悲惨な問題だと思いませんか。

神様はそのような人間の状態を見てこう言われます。

ローマ 3:10b, 「義人はいない。ひとりもない。  
ローマ 3:11, 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。  
ローマ 3:12, すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもない。」

ダビデはそれを自覚したので、「飢え渴く」ように神様との関係を求めました。

グロテスクな罪の話でした。しかし、このダビデの姿こそ自分の姿なのだと思います。

このダビデを笑ったり、見下した時もありましたが、その時の私こそ「神様との正しい関係」が必要だと分かっていなかったのです。

自分こそが飢え渴いていなかったのです。

### ③身代わりの救い

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

「義」とは、「神様との正しい関係」のことだと最初にお話しました。「神様との正しい関係に飢え渴く」、つまり「神様と正しい関係が今すぐ与えられなければ死んでしまう」ような心の状態を、イエス様は「幸い」だと仰ったのです。

それはダビデが指摘されて初めて自覚したように、私達が意識していないだけで、実はすべての人にこの「神様との正しい関係」が必要だからです。その必要の前では、自分を変えようとする努力や反省は全く力不足です。ただ与えられる以外に方法はないのです。

ダビデが指摘された時に「私は主に対して罪を犯した」と言ったときに、「主もまた、あなたの罪を見過ごしてくださった」とすぐ赦されたことに拍子抜けする人もいないのでしょうか。あれだけのことを悪意をもって行ったのに、あっさりと赦されているのですから。

しかし、これこそが神様の恵みなのです。神様との壊れた関係、矛盾した自分の心を償うのに、支払えるものは人間にはありません。

支払えないまま滅びるしかないのですが、神様はそうならなかったのです。

イエス様というお方は、神のひとり子ですが、人間と同じからだを持ち、この世界に来てくださいました。それはひとえに、私達の罪の身代わりとなって、私達をこの罪から救うためだったのです。

壊れた私達と神様の関係は、神様にしか修復できません。神様は、私達が償わなければならなかった罪の代償をイエス様に負わせました。

マタイ 27:46, 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

捨てられるはずの私達の代わりに、イエス様が神様から捨てられ、最悪の関係を味わわれました。

このイエス様のゆえに、私たちは壊れた神様との関係を修復していただけるのです。

ダビデが罪を指摘されたときの心の痛みは、まさに神様との関係を餓え死にしそうな状態で求める苦しみでした。

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

イエス様がこのように仰ったのは、この「神様との関係がどうしようもないほどに壊れている」ことを自覚した人にこそ、本当に必要なものが与えられるからです。それは「神様との正しい関係」です。

それも「満ち足りる」ほど、つまり「餓え死に」しそうだった者が「満腹」するほどに満たされるのです。

それはすべて、私達が何かを償ったからではなく、イエス様が身代わりとなってくださったからです。

「自分が壊れている」「神様との関係が壊れている」と自覚して苦しむ人こそ、神様にとっては「幸い」な人なのです。その人は必ず「満ち足りる」からです。

ローマ 3:20, なぜなら、律法を行うことによって、だれひとり神の前に義と認められな  
いからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

ローマ 3:21, しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、  
神の義が示されました。

ローマ 3:22, すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはす  
べての信じる人に与えられ、何の差別もありません。

ローマ 3:23, すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

ローマ 3:24, ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義  
と認められるのです。